

第152回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成23年10月)

2011.10.26

株式会社 岩手朝日テレビ

第152回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成 23年 10月 26日 (水) 11時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ 3階 会議室
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 5名

委員長	増子 義孝
副委員長	村田 久
委員	小田島 利昭
委員	弭間 俊則
委員	田口 幸雄

欠席委員数 2名

委員	笠川 さゆり
委員	そのだ つくし

会社側出席者名

代表取締役社長	富永 健治
専務取締役	辻 一成
取締役	小林 直紀
取締役	長生 正広
報道制作局長	佐々木 貴
報道制作局部長	鈴木 敦
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	落合 成範
番組審議会事務局	佐藤 清一

4. 議 題

(1) 合評番組

「“十五歳”の原点～啄木・尾崎空を求めた天才詩人」

(2) 11月単発番組及び10月の視聴率について

(3) 次回審議会

開 催 日：平成23年11月24日(木) 11時～

岩手朝日テレビ 3階 会議室

合評課題：「いいコト！」

放送日時 平成23年11月12日(土) 9:30～10:25

(4) 平成23年7月から9月の第3週に放送した番組の「種別ごとの放送時間」についての報告

5. 概 要

- * 富永社長より、IAT開局15周年イベントに10,000人の来場があった。
- * 事務局長より、11月の単発番組と10月の視聴率について説明した。
- * 「十五歳原点啄木・尾崎空を求めた天才詩人」は、番組としてレベルの高い作品だ。
- * 佐々木蔵之介さんのナレーションが良い。
- * 明治生まれの石川啄木、昭和生まれの尾崎豊の類似点を見出した企画制作の熱意が番組から伝わってくる。
- * 15周年と15を無理やり結びつけていないか。
- * 明治、昭和、平成と時代が移りゆく中で、15歳の移り変わりが入っていればよかった。
- * 尾崎豊の人間像がよくわかった。
- * 委員からの意見を真摯に受け止め今後の番組制作の教訓にしたい。

6. 議事の内容

落合事務局長 それでは、只今より、第152回岩手朝日テレビ放送番組審議会を始めます。

 それでは、増子委員長、議事をお願いいたします。

増子委員長 それでは富永社長、一言お願いします。

富永社長 本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

 10月1日でIATは15周年を迎えました。今月の8日から9日に弊社、社屋におきまして、ゴエティーまつりを開催致し、無事、盛況で終わることができました。来場者数1万人で、小さいお子様向けのキャラクターショーやドラえもんのイベント、スタンプラリー等、大盛況で終わることができました。ゴエティーの認知を高めるために役立った意義のある企画でした。

 また、本日も貴重なご意見を頂きますようお願い申し上げます。

増子委員長 ありがとうございます。1万人の来場者とはすごいですね。何かご質問等ございませんか？ないようですので、視聴率と単発番組についてお願いします。

落合事務局長 では11月の単発番組と視聴率についてお話しさせていただきます。11月3日木曜に「美空ひばり23回忌スペシャル番組甦る東京ドームだいじょうぶ日本」を放送いたします。4日金曜日、5日土曜日はフィギアスケートグランプリシリーズ2011中国大会の模様をお伝えいたします。また、5日土曜日、21時からの「ドラマスペシャル・火車」は国民的人気作家宮部みゆき氏の作品をドラマ化した本格ミステリー番組でございます。

 6日日曜日には、第43回全日本大学駅伝対校選手権大会。今年は東日本大震災の被災地支援の一環として東北選抜チームがオープン参加することが決定し、大会への注目が集まっています。

 視聴率についてご説明いたします。全日7.6%で第3位、ゴールデン12.4%で第3位、プライム12.1%で第3位、プライム2は7.4%で第1位でございます。

 中でも「相棒10」は、19日放送の視聴率が20%を獲得しております。また、20日放送の「木曜ミステリー科捜研の女」も16.2%と快調な出だしでございます。

増子委員長

ありがとうございました。何かご質問などございませんか。なければ合評課題に移ります。

弭間委員

「十五歳の原点～啄木・尾崎空を求めた天才詩人」という今回の合評課題ですが、正直申しまして難しい課題でありました。

内容が奥深く、また、レベルの高い作品だったと思います。わたくしは2回見させていただきましたが、まず一度だけ見たときは何を言おうとしているのか思いが伝わってきませんでした。

今まで石川啄木と尾崎豊を結び付けて考えたことがありませんでしたが、明治を生きた石川啄木と昭和を生きた尾崎豊の共通点を繋げて一つのストーリーとしてまとめた作品になっていました。啄木の没後100周年の市長のコメントも盛り込まれてはいましたが、もう少し石川啄木にウェイトを置いてほしかったと思います。

明治の啄木のナレーションや啄木新婚の家などの辺りは良かったと思います。本人の声などを入れていましたが表示がされていればもっと良かったと思います。

田口委員

15周年の「15」というキーワードからよくこの2人を見つけましたね。良い作品に仕上がっていたと思います。

ナレーターの佐々木蔵之介さんの声もとても合っていたと思います。

ひとつ気になったのは、川嶋あいさんが番組に出ていましたが何か関わりがあるのでしょうか。どのような繋がりなのでしょう。「15の夜」「15の春」全体的にまとまっていて良い作品だと思いました。

小田島委員

この作品は一度見ただけでは内容の意図がわからないのではないのでしょうか。私も何回か見てようやく意味が分かったと思います。タイトルから考えるとモヤモヤは残ります。26歳で亡くなるころは共通しています。しかし尾崎豊と石川啄木の生き方は対照的。尾崎豊は大成功、一方の石川啄木は世間に認められずに15歳から青年期まで葛藤があって生きていたと思います。共通点を結び付けて作るのではなく、それぞれの生き方に分けて作ればよかったのではないのでしょうか。

震災復興まで作品の中に入れていましたが、それでは各々の内容が薄まってしまって台無しになるのではないのでしょうか。尾崎豊と石川啄木の15歳から16歳辺りの姿をより丁

寧に濃い内容で入れてほしかったと思います。

ナビゲーターとナレーターのお二方では欲張りすぎ。どちらか一人で良かったのではないのでしょうかね。

村田副委員長

私も一度見ただけでは内容がわからずに、何度か見せていただきました。

難しい合評課題でもあり、それぞれの意見は異なります。明治生まれの石川啄木、そして昭和生まれの尾崎豊その二人から類似点を見出すことで、「十五歳の原点」が企画され制作されたその視点、熱意は番組を見て伝わりました。

石川啄木の「十五のころ」尾崎豊の「十五の夜」歌を作り26歳で亡くなった2人の心の底に鬱積していたのは世の中に対してのやり場のない怒りとそれに対する反抗的な心だと番組では述べていました。それが十五歳の原点なののでしょうか。番組を見終わってもなぜかしっくりこないのですよね。それは2人が過ごした時代の背景や世相に違いがあるからではないのでしょうか。

明治と昭和の2人の青年時代。尾崎豊はスターであり、それなりの収入があつて石川啄木は借金まみれの貧乏生活。共通点というより著しく対照的であり、共通しているのは歌を作ったことが接点という事なのではないのでしょうか。番組が表現したいテーマはそこに落ち着くのでしょうか。どうしても映像や人との関わりを見ると尾崎豊にウエイトが置かれて石川啄木の存在は薄く感じました。これは石川啄木が百回忌という長い年月の経過と資料不足が問題なのではないのでしょうか。これはやむを得ないかもしれませんね。

フィナーレの場面、震災で卒業式ができなかった学校が夏場に式を挙げる場面は番組にそぐわなかったように思えます。

もう少し石川啄木を取り上げる内容にしてほしかったと最後に申し添えます。

増子委員長

皆さんの意見を聞いているとモヤモヤしているようです。私も作品を見ていったい何を言いたい番組だったのかよくわかりませんでした。十五歳の原点っていったい何なのか。共通点とはいったい何なのか。十五歳の歌が彼ら二人にあつて26歳に亡くなったのはわかる。しかし、石川啄木と「川嶋あい」さんの誕生日が1日違いなんかまったく関係のないコメントですよ。

また彼ら2人をいきなり結びつけた理由は何でしょうか。その意味が良くわからないし、何を訴えたいのかよくわかりません。15周年という事に無理やり結び付けようとタイトルにも「15」を付けたのでしょうか。視聴者には意味が全く伝わっ

できません。番組審議会の合評課題だから何度か見て意味も理解できるところがありましたが視聴者は一度しか見ないので、もう少し工夫をして作品を企画、制作するべきではないでしょうか。

佐々木報道局長

委員の先生から貴重なご意見を真摯に受け止めます。今回の作品の企画、意図がうまく視聴者に伝えられず開局15周年を迎える「15」というところに拘りすぎたかもしれません。石川啄木、尾崎豊の父は小さいころから何か作らせるよう教育したとの共通点、そして15歳の年齢で自我に目覚める正義感、思春期に共通した二人の感覚を作品を通して視聴者に伝えたかったのがありました。石川啄木は亡くなってから評価され一方の尾崎豊は生きていられるころに評価された。15歳の時に思った二人の正義感などを今の子供たちにも伝えれば良いなと思い作品を制作いたしました。「空」を希望の「空」と思ってほしかったのが思いでもあります。

報道制作齋藤

貴重なご意見をありがとうございます。2人を比較し類似点を探し、ファン以外の人にも見てほしいと思いながら制作いたしました。偶然ではない二人の共通点、そして歌の力というものをどう伝えるのか、そこが今回の最大のテーマでありました。

ナビゲーターの川嶋あいさんは、歌に可能性を見出していく人、震災後チャリティなどで被災地を訪問し歌を通して希望を持つよう頑張っていました。

石川啄木、尾崎豊2人が発したメッセージを世の中に還元していくところを伝えたかったのですがうまく伝える作品にならなかったと思います。

田口委員

私は尾崎豊のファンではありませんが、この番組を見て尾崎豊の人間像が良くわかりましたよ。

村田副委員長

15歳の若者の現在の姿を入れていたら、また違った作品になったと思います。

明治、昭和、平成と時代が移りゆく中での、十五歳の移り変わりが入っていたら良かったと思います。

増子委員長 「15」という数字にとらわれ過ぎず、その数字を抜きにして幅の広い作品にすればもっと違った意味の作品に仕上がったと思いますね。
なんでこの2人だったのかそこが良くわかりませんでした。

落合事務局長 本日は貴重なご意見をありがとうございました。

増子委員長 それでは終了します。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

朝日新聞10月28日岩手県版に審議概要を掲載。

系列各局に議事録を送付。

本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。

インターネットホームページに掲載。

9. その他の参考事項

特になし

10. 配布資料

◎ 11月単発番組編成予定表

◎ 10月岩手地区視聴率

◎ 7月・8月・9月の各月第3週に放送した番組の種別ごとの放送時間